



ダンボールベッドを実際に組み立てました

ぜんじみち 安原

安原の
いま

総人口 4,494人 (前年比-28人) 【男 2,160人 女 2,334人】
安原地区公民館 〒390-0802 松本市旭2-11-13 TEL 0263-39-0701

当日は松本平で震度6強の地震が発生した想定で訓練が始まりました。施設管理班、総務班など7つの班がそれぞれ役割分担して会場を設営していきま



救護班による避難者受付と誘導

全域で活用してもらうことも目的としています。

3月2日、信州大学附属小学校体育館で、元原町会による避難所開設訓練が実施されました。4年前から信大教育学部と連携し、廣内大助教教授監修下、町会主導の会議を重ねて準備してきました。会議には教育学部防災教育研究センターや市の職員も参加し、昨年10月には避難所開設初動リーフレットを作りました。これは元原モデルとして市内

元原町会避難所開設訓練開催 信州大学と連携して



レジリエンストイレの解説

※レジリエンストイレとは
普段はタンクの水を使いますが、災害で断水した際は1ℓの水で流せるトイレです。

9時半には避難住民の受付を始め、氏名や住所を確認後誘導しました。
消防団第一分団による救命救急実演、簡易トイレとレジリエンストイレの説明、炊き出し提供なども行われました。
訓練の初めに野村茂連合町会長が「訓練を成功させることでなく、実際にやってみて反省点が出るのが大事」とあいさつしました。その言葉もあり、反省会では能登半島地震の支援活動報告も受け、今後どう活かすかを考えました。

その日から11日までは旭町小学校1年生の下校見守りも行われました。10時50分に昇

4月5日の朝、旭町小学校と中学校で地域の人が30分間校門の前に立ってあいさつ運動を行いました。
小学校では親御さんや上級生と手をつなぐ1年生や、友達と一緒に登校する児童たちに、中学校ではそれぞれに登校する生徒たちに向かって地域の人が「おはようございます」と声を掛けると、元気なあいさつが返ってきました。
晴れた朝に響く声はさわやかな気分をもたらし、ひとときの交流を楽しむことができました。



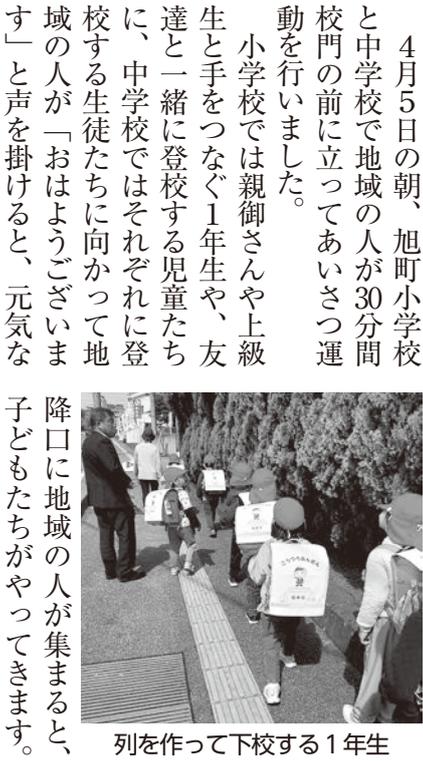
旭町中正門であいさつを交わしました



してほしいものです。

降り口に地域の人が集まると、子どもたちがやってきます。元原・中原・南方面の3班に分かれて先生と地域の人が付き添って下校します。安全に気を配りながらそれぞれの目的地に送り届けると、出迎えるの家族を見つけて子どもは嬉しそうに帰って行きました。これから6年間元気に通学

列を作って下校する1年生



子どもたちの元気な声響く 朝のあいさつ運動と下校見守り

よろしくお願ひします



旭町小学校 教頭 斉藤 優一先生

このたび、旭町小学校に転任して参りました斉藤優一です。旭町小学校は、校歌の歌詞「つらなる山に野に町に 明るい光が満ちわたる」にある通り、町並みと北アルプスの眺望がすばらしく、元氣よく遊んだり自分からあいさつしたりすることのできる子が多い印象です。このような環境のなかで子どもたちと共に学べることを大変ありがたく感じています。



旭町中学校 教頭 棚橋 秀光先生

この4月から、旭町中学校で教頭としてお世話になっていきます。学校目標「剛・愛・聡」と刻まれた御影石の碑が入口に控える歴史と伝統ある本校に赴任し、身の引き締まる思いです。

1か月足らずの生活ですが、生徒はあいさつ・歌声・清掃の重点活動に誇りをもって取り組む様子があつて頼もしい限りです。これから、予測困難な未来をたくましく生き抜く生徒の育成を目指し、生徒と職員が共に学び、成長できる学校でありたいと思います。

そのために、職員一同精いっぱい努めるとともに、地域と学校が子どもを中心に据えて、その願いを共有しながら学校づくりを進められればと考えています。地域の皆様には今後ともお力添えをいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

着任のあいさつ



安原地区公民館 主事 奥原 直弥

4月より安原地区公民館に着任いたしました奥原直弥と申します。公民館勤務は庄内地区で経験があり、こちらで2ヶ所目となります。市内35地区にはそれぞれ特色がありますので、一日でも早く安原地区の多くのことを学んでいく所存でございます。

新年早々に能登半島地震が発生し、防災の必要性を強く感じていたところ、しばらくの後に元原町会避難所開設訓練の記事が目にとまりました。その時は地元の方々ががんばりに元気をいただきました。この時は元気が、まさか自分がここ安原地区に着任するとは思いませんでした。

微力ではありますが、皆さまのお役に立てるよう努力してまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

退任のあいさつ



前安原地区公民館 主事 板花 良太

今回の人事異動で建設部維持課に異動となりました板花良太です。

安原地区では4年間公民館主事としてお世話になりました。配属当初は、新型コロナウイルス感染症が流行り出した頃で、日々の講座や事業が軒並み中止となり、思うよう主事としての役割を果たすことができませんでした。それでも、地域の方と相談しながら、少しずつそれまでの活動を再開させたことは、少しは安原地区に貢献できたのかなと思っております。

地域の方と一番近いところで仕事をすることができ、とても貴重な経験をさせていただきました。4年間ありがとうございました。ありがとうございました。

いちよう並木

日本各地の山野に自生する

オキナグサを紹介

キンポウゲ科オキナグサ属の多年草です。

種子には長い花柱がつき、白毛に覆われています。その綿毛の姿が白頭の翁を想像させるところから、名前がついた植物です。

日当りを好み、濃い紫色でオレンジ色掛かった大型の花は山野草では珍しく、葉も細毛で覆われています。

地方によって呼び名がことなり、岩手ではウバコ、弘前ではババノクサとなど姥の白髪が呼び名の元です。

真夏は半日陰で管理をする。福寿草共々、江戸時代から栽培され親しまれている植物です。

黄色い花を付ける西洋オキナグサもあります。

用土は水はけの良い川砂を多めに鹿沼土・赤玉土・腐葉土を基準に混ぜ使用、開花中は朝の水やりをお忘れなく、但し根腐れ防止には注意する。

地植えでは根が1mも伸び乾燥時水分を得ています。

根がはるため、鉢植えの場合は大きめの鉢に植えること。

肥料を

欲しがる

ため固形

の化学肥料を切らず与え管理してください。



江戸時代から鑑賞された翁草

